

著書紹介：大学生、限界集落へ行く

—「情報システム」による南魚沼市辻又活性化プロジェクト

専修大学 森本祥一

本書は、新潟県の「大学生の力を活かした集落活性化事業」に採択され、南魚沼市の辻又集落の活性化に向けて活動してきた専修大学の森本ゼミナールの2年間の記録です。フィールドワークによる現地調査やインタビュー記録から、問題の分析から解決策の創出と実践、活動の振り返りまでを、一貫して情報システム論の見地からつづっています。

浦先生監修の書籍『基礎情報システム論』に依拠し、「人間関係の本質は情報のやり取り」であり、「生活の基本にある情報システムは人間活動としてのコミュニケーションである」という観点から、集落をひとつの情報システムと捉え、集落で起こっている問題の分析・解決を「どのようにして情報を集め、どのようにして情報を流通させるか」というアプローチで行いました。

具体的には、フィールドワークによって情報を集め、KJ法によって情報を整理し、ソーシャルメディアによって情報を発信してきました。ただし、情報の発信に関しては、ソーシャルメディアなどのICTのみに頼るのではなく、伝えたい情報に適した伝達手段を選んで行いました。例えば、集落の特産品であるコシヒカリ米の美味しさを伝えるために、ファーマーズマーケットでおにぎり販売を行い、中山間地域の問題の深刻さや集落の魅力を伝えるために、講演や紙面でビラを配布しました。更に、こうした情報に対する反応を、集落の方々に手紙や口頭で直接フィードバックし、情報の循環を促す活動を行い、それらが集落の住民の方々、および活動に携わった大学生にそれぞれどのような効果をもたらしたのかについて考察も行っています。

“カネ”も“コネ”もない大学生が、いかにして“活性化”を目指しているのか。これまでの活動によって、集落と大学生にどんな変化が訪れたのか。本書を通して、辻又集落のこと自体や限界集落問題を広く知って頂くとともに、情報システム論からの接近が、地域の様々な問題の解決に寄与し得ることを知って頂き、本学会での議論・研究が活発化することを期待しています。

地域活性化や限界集落問題に取り組まれている自治体や住民、各種団体の方々、こうした活動にご興味のある学生の方々はもちろん、アクティブラーニングを実践されている教員の方々、もしくはこれから実践しようとお考えの方々にお役に立つ知見を提供できると自負しております。

是非とも会員の皆様にお手に取って頂きたいと思っております。



タイトル	大学生、限界集落へ行く—「情報システム」による南魚沼市辻又活性化プロジェクト
ISBN	9784881253083
判型・ページ数	A5・196 ページ
定価	本体 1,500 円＋税
出版社	専修大学出版局

ご注文頂けます。

<http://www.senshu-up.jp/book/b241556.html>